※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3010D

令和５年度　デザイン科

教科	工業	科目	染織デザイン	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	染織デザイン（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

染織デザインの基礎的要素である色彩の知識を中心に学習し、身近な生活に応用されている配色の理論と実際について学びます。そのうえでテキスタイルデザインとは何かを学びます。デザイン史やデザイン技術などとの関連性を重視しながら学習を進めます。

2　学習の到達目標

デザインの基本である色彩に関する知識を深めたうえで、繊維製品の染と織のデザインに関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	色彩や染織デザインに関する内容に興味や関心を持ち、意欲的に理解しようとしている。	色彩や染織デザインの演習課題等に際して、授業で学んだ知識や技術を適切に活用し表現することができる。	色彩や染織デザインの演習課題等に際して、その技術を身に付け適切な表現ができる。	色彩や染織デザインに関する基礎的な理論や体系的な知識身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 練習課題 製作品 自己評価等	学習状況の観察 練習課題 製作品 自己評価等	学習状況の観察 練習課題 製作品 自己評価等	学習状況の観察 練習課題 製作品 自己評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	テキスタイルと造形	○テキスタイルと人とのかかわ　り ○テキスタイルとデザイン ○基礎造形 ○ペーパーデザインの表現技法 ○感性と評価	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ 	○ 	a:基礎造形の学習により美的形式の原理に興味関心を持つことができる。 b:布を使った造形演習を通して素材としての機能的性質の理解や審美性の追求ができる。 c:描写観察による形態の構成やテクスチャーの表現技法を習得している。 d:口絵や図、あるいは実際の布を見てテキスタイルの歴史について知識を理解している。	学習状況の観察 練習課題 製作品 自己評価等
1学期 2学期	染と織のデザイン	○テキスタイルデザイン ○デザインのための色彩 ○テキスタイルパターンの特徴 ○テキスタイルの基礎描法	○ ○ 	 ○ 	○ ○ ○	 ○ ○	a:色彩を含めた視覚の法則について体験により興味・関心を持ち、学習している。 b:比例に見られる美的秩序を考慮した作図を通してデザイン表現ができている。 c:ペーパーデザインに必要な用具の使用法やテクスチャーの描画法を習得できている。 d:単位図形の構成からパターンの骨組み、リピートの付け方までパターンデザインの流れを理解できている。	学習状況の観察 練習課題 製作品 自己評価等
2学期	デザインの具体化	○先染めと後染め ○織り・編み（ニット）によるデザインの具体化 ○染色加工によるデザインの具体化 ○デザインとコンピュータ	 ○ 	 ○ ○	 ○ ○	○ 	a:意匠図のテキスタイルへの具体化や製品化への興味・関心を持ち、学習している。 b:伝統工芸の作品に触れ、各自のオリジナル作品への表現に活かすことができている。 c:手ぬぐいやタオルなどのデザインに対するモチーフの選定からパターン作成を習得している。 d:伝統的な染色技法を理解している。	学習状況の観察 練習課題 製作品 自己評価等

※令和３年度以前入学生用

3 学 期	装飾様式と室内装飾	○伝統と先端 ○工業デザインの応用	○	○	○	○	a:歴史的文様の模写により、世界の装飾様式に興味・関心を持ち、学習している。 b:アパレル・インテリア製品の研究を通じて機能性や感性に応じたものが提案できる。 c:スタイル画を描く練習を通して、プロポーションのとりかたや描き方を体得している。 d:西洋の装飾文様とわが国の伝統文様について歴史的背景や名称の由来をそれらの染織技術とともに理解している。	学習状況の観察 練習課題 製作品 自己評価等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。